



短めで平いものが少ないナガイモ「夢雪」

要約

青森県内で一般的に作付けされているナガイモよりも、コンパクトな形状で平いものが少ない新品種「夢雪」を開発しました。

研究成果の概要

1 背景・目的

現在、県内で一般的に栽培されているナガイモは、栽培地や気象経過によっては、平いもの発生や長大になりすぎる等の問題が見られていました。そのため、従来のもものより外観品質が優れるとともに、掘り取り労力軽減のため、いも長の短い品種の開発が求められていました。

2 内容

- いもの長さは、県内で多く栽培されている園試系6や庄司系より10%程度短くなります。
- いも1本あたりの重さは両系統より10%程度軽く、10aあたりの収量も同程度少なくなります。
- 平いもの発生が少ないため、上位等級であるA・B品の割合は園試系6よりやや高く、庄司系と同等になります。



収穫したいもの比較
「夢雪」(左) 園試系6 (右)

「夢雪」と他の系統のいもの形質・収量・品質(令和2~5年)

品種・系統	全長 (cm)	いも長 (cm)	いも径 (cm)	いも重 (g)	総収量 (kg/10a)	等級別割合 (%)			
						A・B品	C品	平品	D品
夢雪	75.1	56.3	6.5	1,283	4,254	68	13	3	16
園試系6	82.1	62.2	6.6	1,418	4,759	60	12	13	14
庄司系	85.4	64.7	6.2	1,326	4,495	70	13	6	11

3 活用等

- 平いもの発生が少なく整った形状のいもが多いため、品質向上が期待されます。
- コンパクトな形状により、収穫時の折れ・破損等の軽減や掘り取り労力の軽減が期待されることから、それらについて実証を進めています。
- 県と連携して、県内各地で試験栽培等を行い、各地域での栽培特性を調査しています。

関連情報

- 令和6年7月10日に品種登録出願公表となりました(第37359号)
- 収量性の低さをカバーする栽培法等について、現在、試験を進めています。
- 県内への普及に向けて、ウイルスフリー種苗の増殖を進めています。

野菜研究所 品種開発部

Tel. 0176-53-7171

E-mail nou_yasai@aomori-itc.or.jp



青森産技

あomorいの未来
技術でサポート

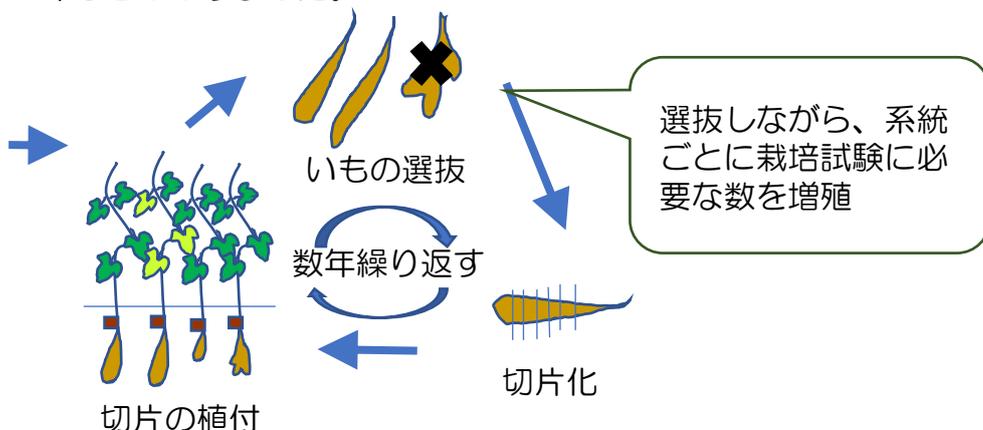


その1 「夢雪」の開発方法

「夢雪」は、園試系6に人為的に突然変異を起こさせたものの中から選抜し、開発しました。育成開始から完了まで10年ほどかかりました。



- ・ ナガイモのむかごにガンマ線を照射
- ・ 照射むかごを植付



新品種候補1 (「夢雪」)

新品種候補2

園試系6

所内や現地ほ場に植付け、収量・品質を評価

品種登録に必要な調査を行い、違いを明らかにする

品種登録出願

その2 葉の形状の違い

3年間調査したところ、「夢雪」はどの年も葉が小さめでした。

品種・系統	葉の長さ (cm)	葉の幅 (cm)	葉のくぼみ (cm)	葉のくびれ (cm)	葉柄長 (cm)
夢雪	9.1	6.5	1.55	0.64	2.81
園試系6	9.6	6.9	1.69	0.73	3.20
あおもり短八	10.2	6.5	2.00	0.56	2.97



左から「園試系6」、「夢雪」、「あおもり短八」

コラム 開発よもやま話

品種開発の目標はいも形状の改良でした。その目標に見合った新系統を育成したところまでは良かったのですが、品種登録するには、葉などの地上部も含めて、既存のものとの明らかな違いを示さなければなりません。そこで、いもの形状から新品種候補を2系統まで絞り込んだ時点から、地上部の詳細な調査を行いました。

特に葉の形状については、新品種候補・既存のもの合わせて4品種・系統について、各40株から1株当たり3枚の葉、合計480枚を採取し、3年間、安定して違いが見られるか調査しました。その結果、新品種候補2については残念ながら安定した違いが見られませんでした。新品種候補1 (のちの「夢雪」) については安定して違いが見られたため、品種登録を出願することができました。